

ステロイド外用薬を使用する皮膚疾患における十味敗毒湯の臨床応用

小笠原クリニック澄川診療所 皮膚科(札幌市) 竹中 ちひろ

ステロイド外用薬やタクロリムス軟膏を使用する皮膚疾患2例(アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎)に十味敗毒湯を併用し、良好な結果を得られた。これには十味敗毒湯の抗炎症作用や皮膚局所でのエストロゲン様作用が関係すると思われる。

Keywords アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、ステロイド外用薬、タクロリムス軟膏

はじめに

十味敗毒湯は江戸時代の医師・華岡青洲(1760~1835)により、癰疽、疔瘡と呼ばれた皮膚疾患のために考案された処方であり、その著書「瘍科方笈」に収載される。処方の成り立ちは、『和剤局方』(1151)に収載される人參敗毒散が改良を加えられて『万病回春』(1587)収載の荊防敗毒散となり、これを青洲が加減してできた処方が十味敗毒湯である。荊芥、防風、羌活、柴胡、桔梗、川芎、茯苓、甘草、生姜、桜皮の10種の生薬で構成され、後に羌活を独活に変えた処方が現代に伝わっている。またこの後に、浅田宗伯(1814~1894)が桜皮を樺楸に改めた処方も同じく現代に伝わった。こうした経緯によって、医療用漢方製剤には桜皮の処方と樺楸の処方の両方が存在している。このうち、桜皮配合十味敗毒湯は尋常性痤瘡の治療に高い有用性が報告され¹⁾、よく知られている。

本方は『化膿性皮膚疾患』という適応があり、化膿のある皮膚疾患全般に処方ができる。今回は、ステロイド外用薬やタクロリムス軟膏を必要とする皮膚疾患に対し、「炎症」及び「女性ホルモンのアンバランスによる悪化」という2点に注目して十味敗毒湯を併用し、一定の効果を得た2症例を紹介する。

症例1 アトピー性皮膚炎

症例1 42歳 女性 アトピー性皮膚炎

【現病歴】 小児期からアトピー性皮膚炎があり、寛解・増悪を繰り返していた。顔面の発疹は生理前になると悪化する傾向があり、ステロイド薬やタクロリムス軟膏の外用を行っていた。治療の中断により、顔面のかゆみ、発疹が再

び悪化してきたため、X年12月に当院受診した。

【現 症】 額に紅斑、鱗屑を認めた。

図1 経過



【経過】 顔面の皮疹部分にデキサメタゾン軟膏の外用、十味敗毒湯の内服を開始した。

1ヵ月後には皮膚の症状は改善し、デキサメタゾン軟膏の塗布を終了しタクロリムス軟膏に変更した。2ヵ月後、タクロリムス軟膏の外用と十味敗毒湯の内服を終了した。

症例2 脂漏性皮膚炎

症例2 46歳 男性 脂漏性皮膚炎

【現病歴】 1年半前から頭部、顔面の発疹、かゆみがあり他院の治療で改善せず、X年4月 当院を受診した。

【現 症】 額、頬、頭部に紅斑、鱗屑を認めた。

【経過】 頭部にベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステルローション、顔面にベタメタゾン吉草酸エステル軟膏の塗布と十味敗毒湯の内服を開始した。治療開始10日後には皮膚症状が軽減し、顔面はヒドロコルチゾン酪酸エステル軟膏外用に変更した。1ヵ月後には炎症はほぼなくなったため、ケトコナゾールクリームに変更し、十味敗毒湯の内服は継続した。6ヵ月後、症状が改善したため外用、内服とも終了し、寛解状態となった。

考 察

十味敗毒湯は抗炎症作用があるため、ステロイドなどの外用療法と併用することで炎症の改善が早く、また改善後、症状の寛解の期間が長くなる印象がある。

女性では生理前後に悪化するアトピー性皮膚炎などの湿疹病変、肌荒れは、エストロゲンが急激に減少することによる、エストロゲンとプロゲステロンのアンバランスによるもので、月経前症候群の症状のひとつと考えられる。十味敗毒湯の構成生薬として配合されている桜皮は皮膚線維芽細胞からのエストロゲン分泌亢進作用があることが報告されている²⁾。エストロゲンはテストステロンへの拮抗作用があり、この作用により痤瘡ではテストステロンによる皮脂分泌促進を抑制することでニキビが改善するのではないかと推察されている。

アトピー性皮膚炎とテストステロンの関係については、テストステロンの増加により皮膚炎が悪化したという実験の報告がある³⁾。アトピー性皮膚炎と女性ホルモンの関係についてはまだ不明な点も多いが、桜皮配合の製剤によ

る皮膚局所でのエストロゲン産生は、月経前症候群として悪化するアトピー性皮膚炎への治療の選択肢のひとつとして試みる価値があると思われた。

図2 経過



【参考文献】

- 1) 竹村 司 ほか: 尋常性痤瘡患者に対する十味敗毒湯(桜皮配合)の臨床効果と作用機序, 西日本皮膚科, 76(2): 140-146, 2014
- 2) 遠野弘美 ほか: 桜皮及び桜皮成分のエストロゲン受容体β結合能の評価, 薬学雑誌, 130(7): 989-997, 2010
- 3) 平本恵一 ほか: アトピー性皮膚炎様症状におよぼすTestosterone投与の影響, J Environ Dermatol Cutan Allergol, 3(4), 315, 2009